

西郷隆盛は当時の武士の中では特に「そろばん」が達者で 数理にすぐれていた



明治維新の指導者。薩摩藩の下級士族の出身。通称を吉兵衛、吉之助、号は南洲。藩主島津齊彬に取り立てられ江戸詰となり、將軍継嗣問題で一橋慶喜擁立運動に東奔西走しました。

しかし井伊直弼大老就任とともに始まる安政の大獄で幕吏の追及を受け僧月照とともに帰藩しました。しかし佐幕論に傾いていた薩摩藩からも追われ、1858年月照と投身自殺を図ったが助かり、奄美大島に流されました。62年に許され尊攘派として動き出しましたが、島津久光にきらわれ沖永良部島に流されました。

64年に帰藩後は蛤御門の変、第1次長州征伐には藩論を統一し幕府側に立ちましたが、第2次長州征伐には反対し討幕派へと転じました。大久保利通などとともに王政復古を行ない、戊辰戦争を主導し征東軍の大総督参謀として勝海舟と会見、江戸城を無血開城させました。

子供の頃、けんかをして手の筋を切ってしまったので腕が伸びず、剣ではお仕えできないとあって、勤皇の志士の中でただ一人ソロバンができました。

明治政府では参議となり廃藩置県を断行しましたが征韓論に敗れて帰郷、私学校を開き、西南戦争を起こし敗れて城山で自刃しました。

